

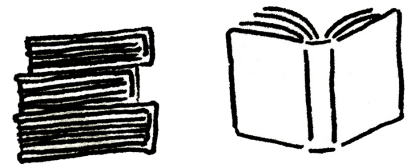
石見銀山学習 ハンドブック



目次

はじめに	01
ESDと学習指導要領	01
ESDとSDG s の関係	02
ESDの教材としての世界遺産	02
ESDの教材としての石見銀山の可能性	03
本書の構成	04
本書を活用する前に	04
プラン1	05
プラン2	07
プラン3	09
プラン4, 5	11
プラン6, 7	12
もっと調べたい	13

01 はじめに



本書は石見銀山学習を行う市内小中学校の先生が授業を進める上での参考書です。

大田市教育委員会が提唱する石見銀山学習とは、大田市内の小中学校全校で取り組んでいる学習です。世界遺産石見銀山遺跡の価値、歴史、採掘や製錬の技術などの学習や、世界遺産に登録されている鉱山跡、町並み、街道などの現地学習も行います。学習の成果として校内や地域での学習発表を行っています。

2017年に策定された大田市教育ビジョン基本計画には、重点目標2に「石見銀山学習、ふるさと教育を入口として、地域と世界の未来を見据えつつ、自ら課題解決に取り組む学習に発展させる。」とあります。さらにめざす主な取り組みとして以下のような記述があります。

これまでの教育活動をESDの視点でとらえなおし、ふるさと教育や石見銀山学習の一層の充実と世界遺産学習への発展を図ります。そして、各学校の実情に応じて、地域の課題を地球規模の課題に結びつける取り組みを推進していくなど、体験活動を伴った課題解決型の学習の充実を図っていきます。

石見銀山学習では、自ら地域課題を見つけ、その解決に主体的、協働的に学ぶ学習活動が行われるのが望ましいです。そして、石見銀山学習を世界遺産学習に繋げ、学習の発展を図る取り組みにしていかなければなりません。

02 ESDと学習指導要領



ESD は、Education for Sustainable Development の頭文字をとったもので、日本語では「持続可能な開発のための教育」と訳されています。

「我が国における「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するグローバル・アクション・プログラム」実施計画（ESD 国内実施計画）」（2016 年 3 月 10 日決定、持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議）では、ESD について、「人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動」としています。

私たちの周辺を見わたすと、国境を越えた地球規模の課題が多様にあり、それが年々深刻化していく時代の子供たちに対して教え込むだけの教育では課題解決に必要な資質・能力を育成することができません。では、子供たちにどのような資質・能力が求められているのか、学習指導要領を見てみましょう。

ESD については、小・中学校学習指導要領の前文及び総則において、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられるとともに、各教科等においても関連する内容が盛り込まれました。そして、以下の3つの資質・能力が要として整理されています。

- ・生きて働く「知識及び技能」の習得
- ・未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成
- ・学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養

そして、これらの能力を生涯にわたって身につけ学び続けることができるように「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められるようになりました。

ESDの視点に基づいた教育実践は、子供たちが身につける資質・能力や授業改善の上でも貢献するものだといえます。

03 ESDとSDGsの関係

2015年9月にアメリカで行われた国連サミットで、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択され、そこに「持続可能な開発目標(SDGs)」が掲げられました。これは、発展途上国のみならず先進国自身も取り組む 2016 年から 2030 年までの国際目標で、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続可能な世界を実現するための 17 の目標と 169 のターゲットからなり、このうち目標 4 は、「質の高い教育の提供」に関するものです。このターゲット 4.7 に ESD が組み込まれています。

ターゲット 4.7

2030 年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

これをふまえて国連は、「教育が全ての SDGs の基礎」であり、「全ての SDGs が教育に期待」している、と言っています。特に、ESD は持続可能な社会の担い手づくりを通じて、17 全ての目標の達成に貢献するものです。

ESD を通じて、日頃の学習での取り組みを、SDGs の達成、そして持続可能な社会の構築につなげていく必要があるのです。



04 ESDの教材としての世界遺産

ESD は持続可能な社会の担い手づくりを通じて、SDGs17 全ての目標の達成に貢献するものです。そのため、ESD の様々な活動が、SDGs の各目標にどのように貢献しているのかを考えることにより、SDGs によって自分自身の ESD の活動に新たな意義や価値付けを行い、ESD の目標を明確化することができます。

さらに、SDGs は人類共通のグローバル目標であり、それを意識して ESD の活動に取り組むことは、地域に根差した身近な活動が世界につながることであり、地球規模の課題解決に貢献することになります。

人類の歴史は良くも悪くもこれからの未来を考える上でよい教材になりえます。例えば、戦争の歴史を学習していると、人は何故争いをするのか、何故核が必要なのかという疑問がおき、その疑問に対する解決が、どうあれば平和な世界になるのか今後よりよい未来を考える上でのヒントになります。また、身近な環境についての学習をしていると、地域の自然の変化や人類が行ってきた環境破壊等を学びとしてこれからの環境保全の在り方を考え、実践していくことができます。

そしてそれは平和や環境だけでなく、福祉、生物多様性、人権、世界遺産等の様々な課題に向き合うことができます。人類共通の遺産である世界遺産としての石見銀山を世界遺産学習として行う意義はそこにあるのです。



05 ESDの教材としての

石見銀山の可能性



「そうはいわれても、石見銀山学習って何するの？とりあえず、副読本を読んで間歩を見に行つて、まとめの学習と発表会をして終わりだけど。それ以外に何かある？」、「毎年同じ内容でよいのでは？」「大田市で勤めるのは初めてで石見銀山について詳しくない」

そんな教師の声が聞こえてきそうです。多くの方が以上のような悩みや思い込みをもっていらっしゃるのではないでしょうか。

石見銀山は2007年世界遺産に登録されました。カテゴリーは文化遺産として、全世界にとっての宝となりました。石見銀が採掘されることで大量生産が可能となり、瞬く間に世界共通の通貨となりました。この石見銀によって、日本だけでなく世界中にグローバル化が起こり、文化や技術の交流が行われました。カステラや鉄砲、医学、天文学…とグローバル化によって入ってきたものを挙げるときがありません。相手を信頼していなければ、国内に輸入することもなかったでしょう。同時に石見銀が輸出されることもなかった。相互の信頼関係がグローバル化の前提ともいえます。

このように歴史的にみても世界を揺るがすほどの石見銀の流通は小中高校の教科書に必ず掲載される程、日本史上重要なことであり、その証拠として当時の戦国武将はこぞって石見銀を手に入れようとしていました。副読本にも記述がある通りです。

一方で石見銀山は世界共通の財産であるからこそ未来に繋げていかなければいけない遺産でもあります。ところが石見銀山一帯は過疎という問題を抱えており、石見銀山で集落が消滅してしまうことは世界遺産の存続そのものに直結します。地域に出かけて調査活動や踏査活動をしたり国内外の地域活性化についての取り組みを調べたりして、自分たちなりの実践を試みる学習もできるでしょう。それは石見銀山だけでなく多くの地域の問題でもあります。そして、その取り組みは現代の地球規模の課題となっているSDGsへ貢献することが可能となります。

石見銀山を以上のようにとらえただけでも、歴史的な見方、現代的な見方と二つの見方をすることができます。歴史的な見方から遺産の継承への学習、現代的な見方から遺産保護への学習と展開することができます。どちらも世界遺産としての石見銀山にとってなくてはならない学習でどちらも重要というものではありません。

ただ、忘れてはならないことがあります。これら二つの学習に共通することは、他人事としてとらえるのではなく自分事としてとらえなければならないということです。世界遺産は人類共通の財産であり誰もが守らねばならない遺産です。アメリカの自由の女神像を守るのはアメリカの方だけではなく、今日の前にいるあなたも含まれているのです。「誰かが継承してくれる、保護してくれる」ではなく、「自分が継承していく、自分が保護していく」という考え方にならねばなりません。それは、どの遺産でもない石見銀山が世界遺産であるからこそ考えることのできる視点なのです。

以上はほんの一例にすぎません。持続可能な社会の創り手の育成のために、石見銀山は世界に通ずるほどの価値がある教材です。島根県にとっては、たった一つしかない世界遺産です。日本で登録されている世界遺産の中で鉱山遺跡は石見銀山と三池炭鉱のみです。そう考えると、ほとんどの児童・生徒が人生で一度しかふれないかもしれない鉱山遺跡でもあるのです。誰もが見聞きできる遺産でないだけに、学習内容の展開も未知であり教材開発のポテンシャルが十分に高い教材でもあるのです。

これを手にとった方には、石見銀山を学習することで地球規模の様々な課題解決に貢献できるのだと前向きにとらえてほしいと思っています。学校には学校独自の、地域課題があります。それを解決するために世界遺産学習のプランを練る。石見銀山学習を行うことに定型はないのです。

ここに載せる授業プランはほんの一例であり、応用は児童や生徒の実態や地域課題、教師の企画力によりアレンジが十分に可能です。

06 本書の構成



○ SDGsのどの目標に該当するのかを示す

大田市教育委員会が示す教育ビジョン基本計画重点目標2にあるESD（持続可能な開発のための教育）の概念は、国連が示すSDGs（持続可能な開発目標）達成のために必要不可欠なものです。

したがって、本書にある銀山学習のテーマがSDGsのどの目標にあてはまるのかを示しています。

○ 見開きで活動案が分かるように示す

本書の活動案は単元全体を見わたして、どのようなテーマでどのような活動をしているのかが、見開きで分かるように構成しています。したがって、活動案自体は詳細ではありませんが、これを読んだ先生方が自分たちの学校や児童・生徒の実態によってさらに工夫をほどこしてください。

○ 現地見学を単元のどこで行っているのかを示す

具体的な行き先、外部講師の有無が分かるように記し、活動案がイメージできるようにしています。

07 本書を活用する前に

○ 「石見銀山ことはじめ」を利用しよう

まずは、大田市教育委員会が作成した石見銀山学習における副読本「石見銀山ことはじめ」を利用して学習をすすめましょう。石見銀山学習を行うのが初めての方には副読本が基本となります。

○ 現地へ行こう

石見銀山学習を行うのなら、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の遺産群を見学しておきましょう。どのような構成資産があるのかを現地に行き、確かめておくことは大切です。現地で出会う方からの話も貴重で、話を聞けるようなら聞いておきましょう。

○ 鉱山を学ぶことだけが石見銀山学習ではない

副読本「石見銀山ことはじめ」で勉強をして、大森町にある間歩や世界遺産センターへ行って学習を終えてしまってもったいないです。「石見銀山遺跡とその文化的景観」の構成資産の中には、温泉津町や仁摩町も入っています。単元のテーマ設定時に何をするかで、行く場所も決まってくると考えましょう。

石見銀山学習のテーマに沿って温泉津町や仁摩町のみを現地見学してもよいと思います。大切なのは、見学先ではなく、単元テーマに沿って、教師が児童や生徒につけたい力をつけることができるかなのです。



遺産
保護

世界遺産である温泉津町は誰のもの？

～踏査活動を通して町の在り方を探る～

	単 元 目 標
総合的な学習	・温泉津町と大森町の現地見学を通して、銀生産において温泉津町が果たした役目は何かを知る。 ・温泉津町民への取材活動を通して、町の現状を知り、今後の温泉津町についての在り方を考える。

SDGs	ターゲット	キーワード
	11-3 持続可能な人間居住を計画・管理する能力を強化	人口減少、限界集落、開発計画
	11-4 世界遺産の保護・保全	世界遺産、保護

まとめる

世界遺産である温泉津町の未来を提案しよう

現地見学

調べる

温泉津と石見銀山を見学し、現状を探ろう

知る

世界遺産の意義や石見銀山と温泉津との関わりを知ろう



外部講師

 博物館学芸員 大田市教育委員会石見銀山課
 温泉津町民 大学生・大学院生



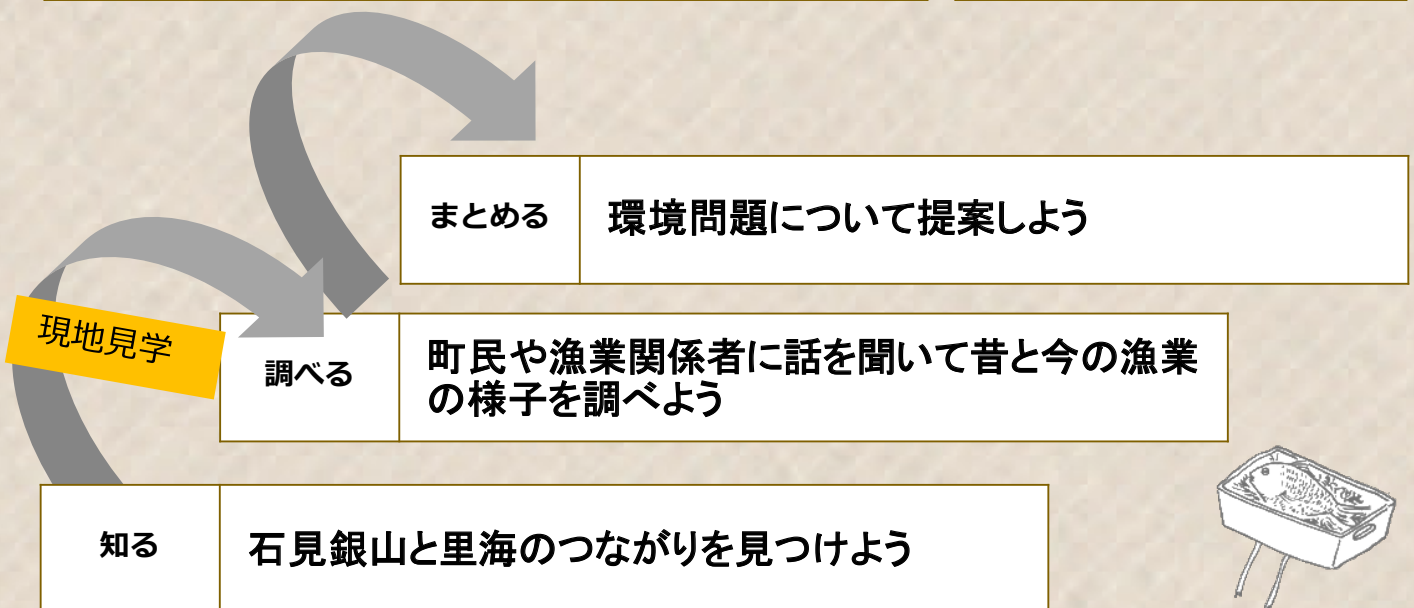
小单元名	学習活動	留意点/連携者
世界遺産の意義や石見銀山と温泉津との関わりを知ろう	○石見銀山と温泉津の関わりについて知る 石見銀山や温泉津の古地図を見て、当時の隆盛を学び、温泉津の石工が石見銀山で活躍していたことを知る。	
	○世界遺産の意義や理念について知る ・「石見銀山ことはじめ」を読み、世界遺産の種類や数を調べる。 ・危機遺産があることを知り、その理由や地域の特徴を調べる。	
	○世界遺産は様々な立場の人が折り合いをつけながら守っていることを知る ・抹消された世界遺産「アラビアオリックスの保護区」や「ドレスデン・エルベ渓谷」の例を参考に世界遺産を保護することの本質を理解する。 ・人口減少している大田市の現状を知り、世界遺産を保護することについて考える。	・外部講師(大学生、大学院生)
	○現地学習に向けての課題を設定する 課題:世界遺産温泉津町の今後について考えよう	
現地見学 現地見学 温泉津と石見銀山を見学し、現状を探ろう 現地見学	○第1回目 現地見学(温泉津町の町並み周辺) 見学先:西念寺、愛宕山、龍御前神社、西楽寺、恵琮寺、龍澤寺、沖泊 ねらい:温泉津町を見学して、当時の商人の様子を学ぶ。	・外部講師(専門職員) ・温泉津町古地図持参
	○第2回目 現地見学(大森町の町並みと銀山町) 見学先:石見銀山資料館、旧河島家、五百羅漢、龍源寺間歩 ねらい:温泉津町と石見銀山との関わりについて学び、温泉津と大森の町並みの違いを考える。	・外部講師(専門職員)
	○第3回目 現地見学(温泉津町の町並み周辺、主に踏査活動) 見学先:グループ別に町内を踏査活動 ねらい:取材活動から住民や観光客の温泉津町に対する思いを探る。	
	○現地学習でわかったことをまとめる ・踏査活動をグラフや文章にまとめて冊子やパンフレットを作成する。 ・完成したものを読み合い、意見交換をする。	
世界遺産である温泉津町の未来を提案しよう	○地域の方に温泉津町の未来を提案しよう ・温泉津町の未来について提案し、それぞれの立場から意見をもらう。 ・冊子やパンフレットは町並み交流センターに巡回展示し、感想用紙にて町民から意見をもらう。	・外部講師(専門職員、温泉津町民)
	○学習発表会をしよう ・学びの成果を地域の方に向けて発表する。	
	○活動の振り返りを行う 温泉津町の未来を現状認識に基づいて提案できたかという観点にそって振り返りを行う。	

環境問題

里海に生活する私達は銀山とどう関わりがあるの？
～里海の調査で見えてきた環境問題に迫る～

	単 元 目 標
総合的な学習	・大都市石見銀山の食糧事情を支えた里海の役割を考える。 ・町内や博物館の見学・調査を通して、昔と今の環境の違いを知り、今後の環境問題についての考察を発信する。

SDGs	ターゲット	キーワード
 13 気候変動に具体的な対策を	13-3 気候変動緩和策と適応策、影響の軽減	CO ₂ 削減、温室効果ガス、気温上昇
 14 海の豊かさを守ろう	14-2 海洋・沿岸の生態系を持続的な形で管理・保護	海洋資源、食料



外部講師

博物館学芸員 大田市教育委員会石見銀山課
まちづくりセンター 町民 漁業関係者

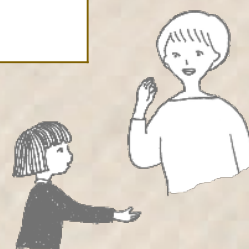
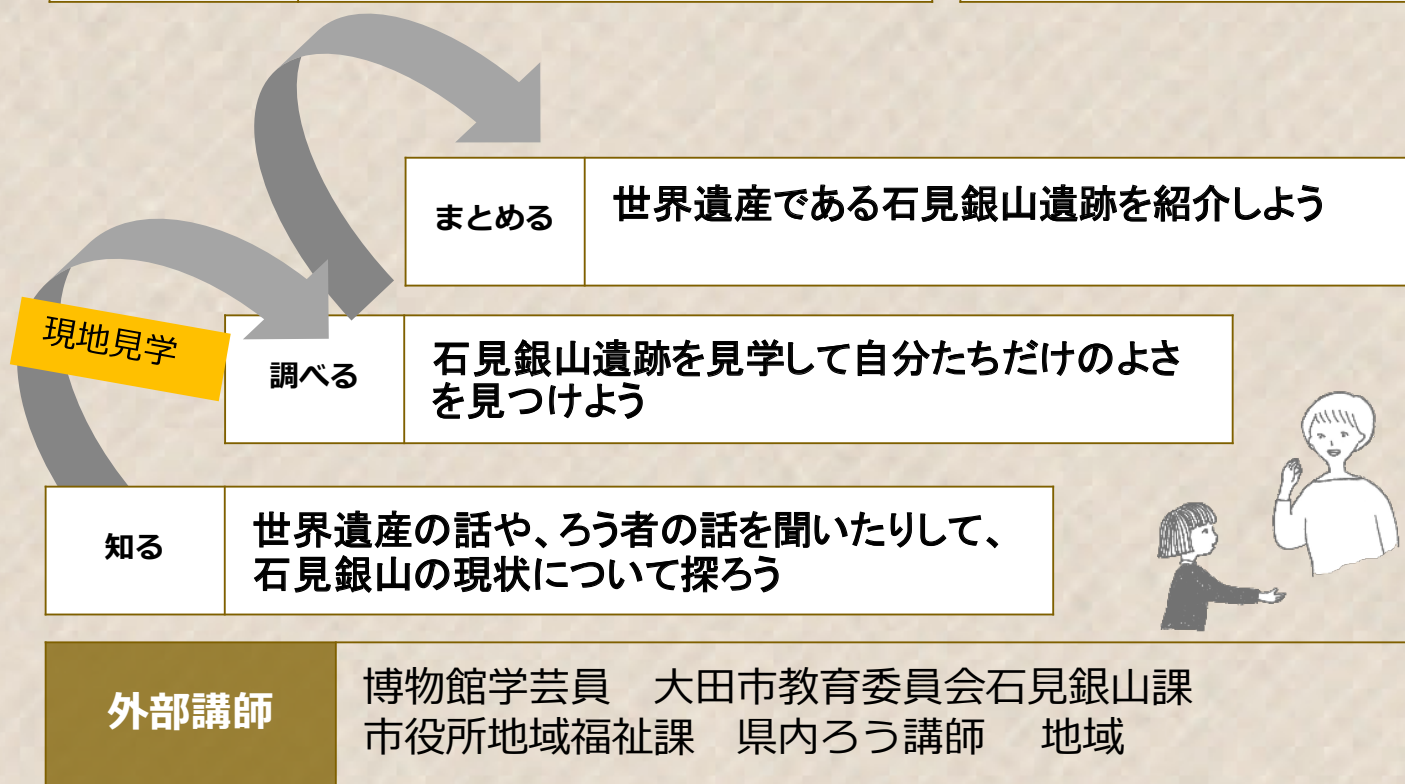
小单元名	学習活動	留意点/連携者
石見銀山と海 辺域のつなが りを見つけよう	○世界遺産「石見銀山」について調べる 「石見銀山ことはじめ」を使用する。	
	○調べて分かったことを全体でシェアする 児童の関心に基づき、石見銀山、世界遺産等様々なカテゴリーについてシェアする。	
	○石見銀山と自分たちが生活する里海との関わりについて考える 「海」をテーマに、石見銀山と里海との関わりについて話を聞く。	・外部講師(専門職員)
	○現地学習に向けて学びたいことをまとめる	
現地見学	○第1回目 現地見学(銀山町と大森町の町並み) 見学先: 龍源寺間歩、町並み、旧河島家、熊谷家、石見銀山資料館 ねらい: 銀生産の様子と武士の暮らしを知り、里海が果たした役割について考える。	・外部講師(専門職員)
現地見学	○第2回目 現地見学(里海周辺の実態の踏査活動) 見学先: 地元漁港、海岸周辺 ねらい: 昔と今の漁業の実態を探る。 ・あわせて家庭での聞き取りも行う。	・外部講師(地元漁師、まちづくりセンター職員、町民)
町民や漁師に話を聞いて昔と今の漁業の様子を調べよう	○二回の見学の学びをまとめ、今と昔の様々な違いについてシェアする ・海洋資源、漁法、肥料、環境、食生活、輸送ルート等に分け関心のある項目についてグループごとに調べ学習を行う。	
	○第3回目 見学 見学先: サヒメル ねらい: 海洋環境の変遷について、専門家から話を聞く。	・外部講師(サヒメル学芸員)
	○グループごとに調べたことについてまとめる	
食料問題について提案しよう	○まとめた内容の発信方法を考える 目的、発信相手、伝えたい形態について確認する。	
	○里海的环境について自分たちの考えたことを発信しよう ・まちセンだよりに掲載し、読者から意見をもらえるようアンケートを作成する。 ・まちセンで町民に向けても発表し、意見交換する。	・大田市まちづくりセンターに掲載依頼。 ・アンケートはQRコードにして集約を行う。
	○地域の方の意見をまとめよう アンケート調査の結果をまとめて、持続可能な今後の環境の在り方について考えをまとめる。	
	○活動の振り返りを行う 地域の環境問題について現状に基づいて提案することができたかという観点にそって振り返りを行う。	

※里海についてはこちらをご覧ください(環境省<https://www.env.go.jp/water/heisa/satoumi/>)

石見銀山学習で学びのバリアフリー化をしよう ～「学び」を通じた共生社会の実現をめざして～

	単 元 目 標
総合的な学習	「平和の教材」である世界遺産を、性別、年齢、障がいの有無、国籍、人種、民族などにかかわらず、誰もが等しくその「学び」を享受するためのバリアフリー化をめざす取組を行うことを通して、共生社会の実現をめざす。

SDGs	ターゲット	キーワード
 4 質の高い教育をみんなに	4-7 質の高い教育をみんなに	障がい者、異年齢（高校生） 学びのバリアフリー
 11 住み続けられるまちづくりを	11-7 住みよいまちづくり	誰もがわかる観光地 共生社会





小单元名	学習活動	留意点/連携者
世界遺産の話や、ろう者の話を聞いたりして、石見銀山の現状について探ろう	○世界遺産の概要(世界遺産とは、種類、平和の礎)について学び、石見銀山遺跡とその文化的景観の現在について知る。	・外部講師(専門職員)
	○石見銀山遺跡について学ぶ 「石見銀山ことはじめ」を中心に複数の資料を読み、石見銀山遺跡について学んだことをまとめる。	
	○ろう講師から観光地での困りごとについての話を聞き、学びのバリアフリー化についての課題を設定する 課題:「観光地の動画作成をして誰もが分かり訪れる観光地にしよう」	・外部講師(市地域福祉課、県内ろう講師)
	○動画作成の準備を行う ・1分間テキストの作成 ・ナレーション練習 ・手話練習 ・高校生との打合せ	・高校生(地域)と動画内容(テキスト、絵コンテ)についてイメージを共有する。
	○ろう講師と通訳者から動画作成の際に行う手話を学ぶ	・外部講師(市地域福祉課、県内ろう講師、通訳者)
現地見学	○第1回目 現地見学(大森町の町並みと銀山町) 石見銀山資料館、旧河島家、龍源寺間歩、高橋家等、計16か所 ねらい:石見銀山遺跡の各所見学を通して、動画解説に必要な内容を集め、テキスト修正を行う。	・外部講師(専門職員)
石見銀山遺跡を見学して自分たちだけのよさを見つけよう	○動画撮影のための計画を練る ・テキスト修正→専門家にチェック依頼 ・絵コンテの修正	・第2回目見学までにテキスト内容が史実にあっているか、見てもらう。(専門職員)
	○第2回目 現地見学(同じメンバーで同じ見学先、今回は高校生(地域)とともに撮影) 石見銀山資料館、旧河島家、龍源寺間歩、高橋家等、計16か所 ねらい:石見銀山遺跡の各所を高校生とともに、動画作成のための撮影を行う。	・外部講師(専門職員、市地域福祉課、市内ろう者) ・市内のろう者に活動の様子を見てもらう。
世界遺産である石見銀山遺跡を紹介しよう	○高校生(地域)とともに動画編集を行う	・高校生(地域)
	○動画発表会をしよう 高校生(地域)とともに動画鑑賞会を行い、意見交換を行う。誰もがわかる動画になっているのかを考える。	・高校生(地域)、ろう講師、地域福祉課
	○活動の振り返りを行う 誰もが分かる観光地にすることができたのかという観点にそって振り返りを行う。	



Plan4

食糧
問題

井戸平左衛門に学ぶ持続可能な食料との付き合い方

単 元 目 標		
総合的な学習	享保の飢饉に対応した郷土の偉人の功績から、現代の食糧事情について学び、持続可能な消費生活について考え、自分たちの行動に生かす。	
SDGs	ターゲット	キーワード
12 つくる責任 つかう責任 	12-3 食品ロスの減少	井戸平左衛門 食料廃棄、食品ロス、持続可能な消費生活

知る	調べる	まとめる
井戸平左衛門の功績について学ぶ。	現代の食品ロスについての現状を調べる。	持続可能な消費生活の在り方について提案をする。

Plan5

地域
活性

連歌って楽しい！地域の人々と連歌をしよう！

単 元 目 標		
総合的な学習	世界遺産の地に残る400年前の連歌の資料をきっかけに町の活性化につなげることを発想し、地域に提案をすることを通して、町づくりに積極的に関わる。	
SDGs	ターゲット	キーワード
11 住み続けられる まちづくりを 	11-7 住みよいまちづくり	連歌 連歌会 細川幽斎 地域活性 観光

知る	調べる	まとめる
世界遺産の地を歩き、400年前に催された連歌の資料が存在することに気づき、当時の町の様子を学ぶ。	連歌を体験したり地域の踏査活動をしたりしたことを踏まえ、地域で連歌会を実施する。	観光者も参加できる連歌会の在り方について、考えをまとめる。

文化の交流から考える持続可能な居場所とは？

単 元 目 標		
総合的な学習	石見銀山を支える宿場町として栄えた大田の町を見つめ直すことを通して、俳句を介して地域の高齢者とふれ合いながら、世代を超えた交流の在り方を考え、自らの実践に生かす。	
SDGs	ターゲット	キーワード
 11 住み続けられるまちづくりを	11-7 住みよい町づくり	宿場町 西行 中嶋魚坊 俳句 句会 高齢者
知る	調べる	まとめる
当時の石見銀山を支えた大田の町の人や物や文化があることに気づく。	大田町に深く関わりのある俳人に着目し、自分達も俳句を詠む。句会で町を活かす方法を考える。	地域の集まりで高齢者と句会を行い、持続可能な居場所について提案をする。

日本最初のマスクは石見銀山!? マスクを通して「命」に向き合う



単 元 目 標		
総合的な学習	石見銀山の鉱山病対策について調べたり、マスク製作に取り組んだりすることを通して、命の大切さについて考えながら生活していく。	
SDGs	ターゲット	キーワード
 3 すべての人に健康と福祉を	3 すべての人に健康と福祉を	福面 宮太柱 鉱山病 マスク 新型コロナウイルス 命
知る	調べる	まとめる
石見銀山の鉱山病対策の一つで「福面」という防塵マスクが使用されていたことを学ぶ。	マスクの歴史を調べたりマスクを作成したりする。地域と連携をして自作マスクの配布を行う。	マスクについての展示やマスクを使用した感想を地域の方からもらい、命を守ることにについてまとめを行う。



Access

もっと調べたい



歴史資料等



鉱物、貨幣等

資料記号	サイト名	URL
	国立国会図書館 デジタルコレクション	https://dl.ndl.go.jp/
	東京国立博物館 デジタルライブラリー	https://webarchives.tnm.jp/dlib/
	国立科学博物館	https://www.kahaku.go.jp/
	筑波大学 産業技術研究所 地質標本館	https://www.gsj.jp/Muse/
	秋田大学大学院国際資源学研究科附属鉱業博物館	http://www.mus.akita-u.ac.jp/
	大阪大学附属図書館 西洋古版アジア地図	https://www.library.osaka-u.ac.jp/others/tenji/maps/maps.htm
	島根大学附属図書館 デジタルアーカイブ	https://da.lib.shimane-u.ac.jp/content/ja
	古地図コレクション	https://kochizu.gsi.go.jp/
	国土交通省 国土地理院航空写真	https://www.gsi.go.jp/tizu-kutyu.html
	しまねバーチャルミュージアム	http://www.v-museum.pref.shimane.jp/
	豊橋市視聴覚教育センター・地下資源館	https://www.toyohaku.gr.jp/chika/collection/tmnr/resources/resources.html
	アジア歴史資料センター	https://www.jacar.go.jp/
	あつまれ！地質を愉しむデジタルコンテンツ	https://www.gsj.jp/geologyday/2020/homestudy.html
	日本銀行金融研究所貨幣博物館	https://www.imes.boj.or.jp/cm/
	石見銀山Eライブラリー	https://igelibrary.actibookonline.com/

**教師のための
石見銀山学習ハンドブック**

2021年3月

編集 石見銀山資料館

発行 NPO法人石見銀山協働会議

大田市仁摩町仁万 5 6 2 - 3

大田市役所仁摩支所内

Tel : 0854-88-9123/Fax:0854-88-9124

URL : <http://ginzan-npo.jp/>

